

J A 御 中
(営農担当部署)

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：J A福岡中央会 担い手・営農サポートセンター)
(公印省略)

営農情報 13

《大豆の長雨対策》

8月下旬の長雨と8月28日の大雨による浸水・冠水により、大豆の生育に影響が出始めています。そこで、被害を最小限にとどめるため、早急に適切な技術対策を講じ、収量・品質の確保に努めましょう。

(1) 排水対策

大豆は浸水・冠水に弱く、冠水数時間で減収率が高まる恐れがあります。このため、ほ場内の停滞水を早めには場外へ排出し、根圏に十分な酸素を補給することによって根粒菌の活性を促進させる必要があります。

そこで、以下の排水対策を早急に行いましょう。

- ①本暗きよの栓を開け、中耕・培土でできた溝と排水口を確実に繋いで、早めに地表水の排水を行う。
- ②強い雨や浸水・冠水により畦が崩壊し、停滞水の排出が困難な場合は、乗用管理機等の車輪跡がはっきりつく程度になったら畦間を走行するなど、早めに根圏に酸素を供給する方法を講じる。
- ③今後も雨が多いと想定されるため、畝溝の整備を行い、排水対策の徹底を図る。

(2) 雑草対策

大豆の生育量が少ないほ場は雑草の発生が多くなるので、必要であれば早めに畦間処理除草剤を処理する。

(3) 追肥

長雨により湿害のため葉が黄化がみられる。開花期前で生育量が少なく、葉の黄化がみられるほ場は、窒素成分で2kg/10aの速効性肥料を追肥し、生育を回復させる。

また、試験的だが、開花後9日に尿素の葉面散布(窒素成分で2kg/10a、水100L希釈)し、収量がやや向上した事例はある。

以上